

“びんリユース”は未来につながる暮らし方

やまもと よしみ
びん再利用ネットワーク 事務局長 **山本 義美**

はじめに

びん再利用ネットワーク（以下、びんネット）は、容器包装のごみ問題を解決するため、びんリユースに取り組む4つの生活協同組合（以下、生協）：パルシステム連合会；グリーンコープ連合会；生活クラブ連合会；東都生協がネットワークし、1994年に設立されました。

2024年からコープ自然派事業連合が新たに参加し、現在、北海道から九州まで約300万世帯の組合員がびんリユースに取り組んでいます。



最大の特徴は、規格を統一したRびん（日本ガラスびん協会の®マークを刻印）にあります。これにより、回収・選別・洗浄などの効率を格段に高めることができます。

設立から2023年度末500ml Rびんでの累計で、2.8億本（7.6万t）を回収しました。これにより、自治体のリサイクル回収費を約45億円節約しています。

残念ながら日本では

日本では、ドイツやフランス、韓国などとは異なるリサイクル制度や、プラスチックに依存したライフスタイルの蔓延

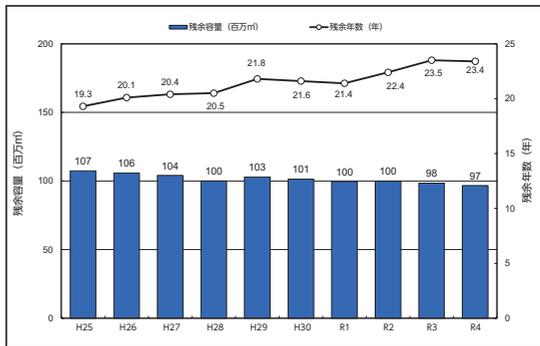


図1 環境省「一般廃棄物排出量」

などにより、残念ながら、3Rがあまり進んでいません（図1参照）。

最終処分場の残余年数はあと20数年しかなく、“持続可能な暮らし”には黄色信号が灯っています。

びんネットは設立30周年

世の中には逆風が吹いていても、びんネットは設立30周年を迎えることができました。これを記念し、2023年から2024年にかけて、3つの企画（①回収率アップキャンペーン、②環境負荷低減効果の委託調査、③設立記念イベント）を実施しました。

①回収率アップキャンペーン

2023年には、「回収率10%アップキャンペーン（Rびん3本返却で1口応募、抽選で330名に図書カード3,000円分プレゼント）」を4生協合同で行ないました。びんネット全体で、回収

は7.6万本増えましたが、供給も伸長したため、回収率は5%UP（67.7%→72.4%）に留まりました。

なお、この取り組みにより、びんリユースに取り組む仲間がいるということが大勢に共有され、参加した組合員の環境マインド向上につながりました。

②環境負荷低減効果の委託調査

2023年、京都大学（環境安全保健機構 環境管理部門）に「Rびんリユースの環境負荷削減効果に関する研究」を委託し、2024年4月に調査報告書を受領しました。この研究は、京都大学が先行実施したガラスびん3R促進協議会の解析枠組をベースとし、生協の実態を加味して行なわれました。

図2の地球温暖化の解析結果では、びんリユースによる新びん製造時の温室効果ガス（GHG）削減効果が大きく寄与し、びん回収のための輸送によるGHG増加を上回る削減が実現できていることが確認できました。

③設立記念イベント

2024年、生協の組合員や一般市民にびんリユースをアピールするため、環境月間である6月に「設立30周年記



櫻田さんと滝沢さんのやりとり

念イベント」を開催しました。会場は連合会館（東京都千代田区）で、リアルとオンライン配信のハイブリッドで行ないました。記念講演はエリック・カワバタさんとマシンガンズ滝沢さん、司会はエコアナウンサーの櫻田彩子さんをお願いしました。リアル参加者は総勢139名、オンライン申込は約300名でした。

美味しいものはびんに入っている

おいしいものはガラスびんに入っています。そのびんを回収して繰り返し使えば使うほど、ごみやCO₂などを減らすことができます。

びんリユースは、“ひと手間”がかかりますが、プラスチックによる簡単便利なライフスタイルの対極にある“オルタ

ナティブな暮らし方”です。30年前に組合員の直感で始めたものですが、今日のSDGsに先んじた取り組みであり、未来につながる“暮らし方の提案と実践”といえます。

<https://binnet.org/>



図2 シナリオ（S1～7）分析結果（地球温暖化）